

株式会社 すららネット
2019年6月11日

海外小学生向け算数 e-ラーニングシステム「Surala Ninja!」

アジアの教育ハブを目指すスリランカ有数の インターナショナルスクールに英語版を導入

日本の小・中・高校生ならびに海外の小学生向けの対話型 ICT 教材開発・提供を通じ教育支援を行う株式会社すららネット（本社：東京都千代田区、代表取締役社長：湯野川孝彦）は、海外小学生向け算数 e-ラーニングシステム「Surala Ninja!」の英語版を、スリランカの最大都市コロンボにある有名インターナショナルスクール・グループ、Horizon College International に提供することとなりました。6月11日より Nugegoda 校（ヌゲゴダ校）の幼稚園年長～小学6年生の生徒が放課後活動として「Surala Class」の受講を開始します。7月からは本校である Malabe 校でも順次授業をスタートします。

「Surala Ninja!」は、「すらら」の海外版として小学生向けに開発された、インタラクティブなアニメーションを通じて加減乗除の四則計算を楽しく学べる e-ラーニングシステムです。現在、スリランカ向けのシンハラ語版、インドネシア向けのインドネシア語版、また、主にインドで活用されている英語版があります。

この度「Surala Ninja!」が導入される Horizon College International は、大学までの一貫教育を行う知名度の高いインターナショナルスクール・グループで、教育環境の質の高さではスリランカのトップレベルの評価を誇る学校になります。スリランカ政府の2020年のビジョンと共に、アジアの教育拠点となることを目指し、積極的に海外の教育機関との連携を図っていることでも知られています。「Surala Class」の対象となる小学生の生徒数は1300名強にのぼり、新年度からの授業導入も見据えています。

今回の「Surala Ninja!」の導入は、グローバル教育を目指し理数教育に力を入れるという学校の方針のもと、カリキュラム強化というニーズに合致することが理由として挙げられます。さらに、同校はイギリスやドイツといったヨーロッパの学校との交流が深い一方で、「今後は同じアジアでスリランカにとっても関係性の深い日本との交流や日本語教育に力を入れていきたい」と会長のダラナガマ氏が言うように、日本の IT 教育や日本式マナーが学べる「Surala Class」に期待を寄せています。

NEWS RELEASE



スリランカにおいては、JICA プロジェクトとして 2014 年から現地のマイクロファイナンスの組織「女性銀行」と連携し、教育訓練を受けた BOP 層の女性が小学生にシンハラ語で算数を教える算数塾の「Surala Juku」をスタートしました。その後、2017 年より学習塾の形態だけでなく、私立学校やインターナショナルスクールでも導入されるなど学校分野での活用も広がっており、この度 Horizon College International で英語版の活用がスタートします。

すららネットは、「教育に変革を、子どもたちに生きる力を。」を企業理念とし、一人一人のペースや学力レベルに合わせて学習を進められるオーダーメイド型の対話式 ICT 教材「すらら」を約 780 の塾、約 170 の学校に提供しています。発達障がいや学習障がい、不登校、経済的困窮世帯を含む 61,000 人以上の生徒に学習の機会を提供するなど、日本および海外での教育課題の解決を図ることで成長を続け、代表的な EdTech スタートアップ企業として 2017 年 12 月には東証マザーズに上場しました。また、学習コンテンツの多言語化、ローカライズを行い、JICA 民間連携事業によるスリランカでの教育格差是正プロジェクト、JICA 中小企業海外展開支援によるインドネシアにおける産学連携での学力達成度強化プロジェクトの採択を契機に、海外での事業展開を開始しています。スリランカの活動については、2018 年より文科省の「日本型教育の海外展開推進事業(EDU-Port ニッポン)」の公認プロジェクトにも採択されています。これにより、これまで十分な学ぶ機会を得られなかった子どもたちも、すららによる学びの輪に加わっています。

すららネットは今後も、世界中の教育格差という社会課題を最先端技術で解決し、教育格差の根絶に向け貢献していきます。



写真:Horizon College との契約成立



保護者説明会時の体験会の様子